



未来の先生を育てる

県南教育事務所長
加治 行雄

茨城県では、11月を「いばらき教育月間」と定めています。そのような中、11月20日には、県南から教職に興味・関心のある中学生49名が参加をして、「中学生のための教職セミナー」が開催されました。オンラインによるグループトークでは、参加いただいた6名の先生方から教員の魅力について語っていただきました。「子供たちのために役立っている自分を感じた時、先生になってよかったと思う。」「1日たりとも同じ日はなく、毎日が新鮮で楽しい。」など、先生方が語りかける言葉に中学生は真剣に聞き入っていました。

また、このセミナーに参加した理由について、「とても優しく見守ってくれる先生がいて、その先生のようになりたいと思って参加をしました。」など、多くの生徒が教師への憧れを語っていました。茨城県教員採用試験志願者の志願理由を見ると、そのほとんどが小中学校の恩師の影響について言及しています。教員を目指すきっかけは、やはり私たちが作っているのです。現在の子供たちに教員の魅力を伝えるのは、先生方の日々の姿です。望ましい同僚性の醸成や人間力を高める自分磨きは、心にゆとりがあってこそ実現します。公私ともに充実した生活を送り、常に魅力ある教員であることを意識することこそ、私たちの大切な使命であると考えます。

総務課

期末勤勉手当について

12月期の期末勤勉手当が12月10日に支給されます。支給割合、扶養状況等のご報告いただいた内容が支給額に正しく反映されていることをご確認いただくをお願いします。

優秀教職員表彰

11月19日（金）令和3年度優秀教職員の表彰状伝達式を実施しました。



前列左から利根中:高橋教諭、高山中:毛塚教諭、谷田部東中:八重樫校長（組織）、石岡小:櫻井教諭、谷和原中:池内養護教諭

人事課

令和4年度定期人事異動

11月17日（水）県南市町村立学校長会議において、令和4年度の定期人事異動説明会を行いました。各校におかれましては方針等の周知がなされ、人事面談・事務が行われているところと思います。今後は、正確な書類作成へのご協力をお願いいたします。

特色ある学校づくりのための公募型人事異動

公募型人事異動は、校長の教育理念や学校運営方針等を広く公表し、学校の特色づくりや課題解決に積極的に挑戦しようとする教員を募集するものです。

県南教育事務所管内の公募校3校をお知らせいたします。

土浦市立土浦第二小学校（稲田弘之校長）教科指導（音楽）の充実
取手市立山王小学校（浅野誠校長）小規模特認校における教育活動の充実
阿見町立あさひ小学校（宮崎智彦校長）特別支援教育の充実

公募理由のプレゼン動画が、教育情報ネットワークで配信されていますので是非ご覧ください。【12月10日（金）まで】

ホーム>文書通知>義務教育課>お知らせ一覧

次の要件をすべて満たす教職員は、その校1年目でも、希望する1校に出願できます。

- ・現に本県の公立学校で3年以上の勤務経験を有している者
- ・出願する学校種、教科等の教育職員免許状を有している者
- ・校長の推薦を受けた者

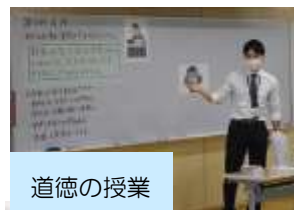
教職員の皆さんにとっては、その能力を一層発揮し、キャリアアップを図ることができる機会です。ぜひ、出願について御検討ください。

学校教育課

令和3年度教育課題に対応するための
リーダー養成研修講座（第3日）

11月11日（木）に、「教育課題に対応するためのリーダー養成研修講座（第3日）」を実施しました。午前中は、土浦市立新治学園義務教育学校で道徳科の授業を参観させていただき、どのような視点で、どのような助言を行ったらよいのかについての協議を行いました。「子供の姿をもとにして改善すべき点を提示すること」、「より良いものにするための代案を示すこと」など、授業者への具体的な助言について考えることができました。

研修の最後には、所長から「組織に安心感を与え、一人一人が自分の持ち味を発揮することができるように、サーバントリーダーシップを発揮してほしい」との講話をいただきました。アンケートから、多くの研修生が、組織の一員としての自覚を新たにすることが伺えます。研修生を通して、各学校の組織力がさらに力強いものになることを期待しています。



道徳の授業



グループ協議



取手市教育委員会

心から誰かにすすめてくれるような、一冊の本との出会いを子供たちに!

心からみんなにすすめたい一冊の本推進事業



～令和3年度文部科学省「学校図書館の活性化に向けた調査研究」委託事業～

令和2年度の取組より

今年度の取組

課題

①茨城県内初の学校図書館一市立図書館連携システム「サービスタブ」が、導入3年を経過したが、活用促進が進まない。

②学校や家庭の状況によって、児童生徒の読書率に差が見られ、市全体として停滞傾向にある。

事業のねらい

①学校図書館一市立図書館連携システム「サービスタブ」の活用促進、活性化をはかる。

②すべての児童生徒が、魅力的な本との出会いをするための読書率の向上をはかる。

取組実施地域・学校の指定

- 取手市立金小学校 14校
- 取手市立金中学校 6校
- 取手市立図書館 2館
- ・取手図書館・ふじしろ図書館

実施内容

①心からみんなにすすめたい一冊の本推進事業・校内大会

・「心からすすめたい」一冊の本を調査し「心からすすめたい」カードを作成
・それをもとに校内大会を開催
・代表者は図書館に推薦

②「サービスタブ」活用促進プログラム

・児童生徒対象
・「サービスタブ」の仕組みや使い方について学習および貸し出し体験
・司書対談
・2024年オンライン研修会の開催
講師：福岡・淳子・先生
「読書力を育てるために」

③中学生「心からビブリオバトル大会」

・コロナ禍のため、新年度より大会を実施
・図書館ホームページで動画を公開。市民の方にも視聴
・審査員には、取手市員も参加。優勝者は「市長賞」として市長から賞状を授与

「家族部門」の新設

家族で「すすめたい」一冊の本、大募集!!

○小学生は、取手市「うちとくリスト」の本の中から、家族で一緒にすすめたい本を「おすすめカード」に書いて紹介します。

○家族は、父母、祖父母、兄弟(小中学生を除く)いずれでもOKです。

○特典として、取手市立図書館ファミリーカード(家族とも貸し出し冊数倍増)、取手市オリジナルグッズを用意します。

ビブリオバトル大会」の発展

○今年度は、中学校から1名の代表者を選出するのではなく、参加を希望する中学生は誰でも参加できることに変更しました。

○本番までの期間に、市立図書館で、市民の読み聞かせサークルの方との練習会に参加することができます。

○特典として、取手市立図書館ゴールドカード(貸し出し冊数無制限)ほか、取手市オリジナルグッズを用意します。

成果

- 自校や他校の児童生徒が薦める本に興味が高まり、小・中とも貸し出し数が増加した。
- 選書の幅を広げた児童生徒が増加した。

一冊の本を通して、人と人との心の交流が深まるような事業を目指します!



稲敷市教育委員会

タブレット端末を取り入れた遠隔教育実証研究事業の取組

実証研究2年目の取組

～遠隔授業における1人1台端末(GIGAスクール構想)の活用～

稲敷
いなすけ



今年度は、桜川中学校配信の江戸崎・新利根・東中学校ユニット、桜川小学校配信のあずま北・あずま西小学校ユニットが、それぞれエリア型遠隔授業の実践を積み重ねてきました。10月26日に中学校ユニット、28日に小学校ユニットが1人1台端末を取り入れた実証研究のための授業公開を行いました。1年目の経験から①学習活動の特性を生かした効果の高い学習形態(遠隔と対面、3校合同と単独)の使い分け②配信校・受信校の先生の連携(画面の表示内容の切り替え・焦点化及び個への支援)の2点については共通実践しました。

中学3年国語「多面的に検討する『観察・分析して論じようー「ポスター」の批評文』での実践

- ①多様な見方考え方に触れることができるよう受信校同士をつなぎ、3校遠隔合同授業を実施
- ②同じ題材を選んだ生徒同士が、学校の垣根を越えて観察・分析したことを各自の端末内で共有(オクリンク使用)
- ③発表者はモニターに映った各校生徒の様子と自身の姿を確認しながら相手意識をもって発表

中学受信校：モニター2台で臨場感・視認性向上



小学5年算数「単位量あたりの大きさ」での実践

- ①Microsoft OneNoteの使用(黒板代わりに電子黒板に表示⇒視認性の向上)
- ②臨場感を出すための工夫(児童端末にはOneNote画面と授業者の姿が映る)
- ③Google Jamboard使用(書き込みながら説明し合う⇒共有)
- ④Google Formsの活用(適用問題の自動採点・フィードバック機能による学習の個別化)

小学配信校：臨場感・ICT操作性の向上



遠隔教育実証研究事業に取り組んでの稲敷市としての主な成果

- ①研究校の教員のICT活用スキル向上とその波及効果による市内教員のICTスキルのレベルアップ
- ②9月の臨時休業時における双方向型オンライン学習へのスムーズな移行実現による学びの保障
- ③ICT支援員との連携活性化によるICT機器を活用した新たな授業実践・改善意欲の高まり
- ④デジタル、アナログのよさ・向き不向きを検証し、効果に応じて使い分けようとする意識の高まり

研究を通して培ったスキル・視点を土台とし、遠隔教育の有用性が最大限発揮できる単元・教材又は行事等を精選し、効果的に活用することにより、児童生徒の資質・能力の育成・向上につなげる取組を今後とも継続していきたくと考えています。